



西大路曳山(にしおおじぎやま)

仁正寺

初代建造不明。(現在三代目)

仁正寺【にしょうじ】藩主「市橋長富」【いちはしながとみ】公の寄進により尾張の職人が文政8年(1825)に着手、8年の歳月を費やし天保4年(1833)に日野最大の豪華な曳山を再建しました。



本町曳山(ほんまちひきやま)

鳳仙社

明和7年(1770)大修理。

平成12年(2000)に復元新調した見送り幕、紫地鳳凰樹下仙山水図【むらさきじほうおうじゅかせんざんすいず】が見もので、社名の由来ともなっています。曳山本体の四本柱雁金文透金具【しほんばしらかりがねもんすかしかなぐ】と側面の鶴松図と亀図も見事です。



新町曳山(しんちょうひきやま)

八景閣

文化4年(1807)頃建造。

銚金具【かざりかなぐ】や正面脇間【わきま】の彫刻、上場【うわば】欄間【らんま】の近江八景の彩色彫刻など装飾が豊富で、向拝【こうはい】付きの豪華な曳山です。



上鍛冶町曳山(うえかじちょうひきやま)

萬延社

万延元年(1860)建造。

建造されて約70年は素木【しらぎ】の曳山でしたが、昭和4年(1929)に昭和天皇の即位御大典の記念事業として総漆塗り金箔置き金物付の曳山にされました。

曳山十六基



双六町曳山(すごろくちょうひきやま)

壽雙車

寛政5年(1793)頃建造。安政6年(1859)大修理。上場【うわば】欄間【らんま】には明治10年(1877)に、今在家村【いまざいけむら】の「忠兵衛」【ちゅうべい】作による樹花鳥獣【じゅかちょうじゅう】の素木【しらぎ】彫刻が付けられています。



上大窪町曳山(かみおおくぼちょうひきやま)

瓊象社

文久3年(1863)建造。かつては日野祭の曳山巡行順を籤【くじ】で決めていました。上大窪町の曳山は大窪の曳山の中で、籤【くじ】取らずの二番で巡行していました。典型的な日野の曳山ひとつで、天場【てんば】下の和様組物は異色です。



河原田町曳山(かわはらだちょうひきやま)

蘭香閣

創建宝暦年間(1751~1763)以前。再建元治元年(1864)。正面向拝【こうはい】と天場【てんば】下に垂木【たるぎ】を付け、舟木【ふなぎ】に龍と波の彫物をつける。平成6年(1994)復元新調の見送り幕の『三國志』は、劉備から届いた書簡を開羽と張飛が拝読中の図が刺繍【ししゅう】されています。「商」の神として人気のあった『三國志』で、町衆の「商の道」への心意気が偲【しの】ばれます。



大窪町曳山(おおくぼちょうひきやま)

龍虎車

文久【ぶんきゅう】元年(1861)建造。日野曳山唯一の素木【しらぎ】の曳山で二番目に大型です。見送り幕、横幕の下絵は岸派【きしは】の岸岱【がんだい】・岸慶【がんけい】親子の共同作です。



清水町曳山(しみずちょうひきやま)

りくとく
六徳

文政8年(1825)建造。
諏訪の彫刻大工「立川和四郎」【たてかわわしろう】が彫った二十四孝【にじゅうしこう】の素木【しらぎ】彫刻と京都の画家「満黄」【まんこう】による波の絵模様は見事です。また曳山の金箔と漆塗りに関しては当町に在住した塗師職人の技術の総力が傾注されています。



越川町曳山(えちがわちょうひきやま)

しょうかく
翔鶴

文化3年(1806)建造。
四本柱の菊文透金具【きくもんすかしかなぐ】が見ものです。横幕の下絵は、四条派の画家「塩川文鱗」【しおかわぶんりん】が描いたものです。



杉野神町曳山(すぎのがみちょうひきやま)

かんしん
歓心

寛政3年(1791)頃建造。
日野曳山の中で、最古の部類に属し、典型的な重箱山【じゅうばこやま】です。曳山側面の雅楽楽器模様金具は異色。見送り幕は、雲向龍文様金銀繡羅紗【くもむかいりゅうもんようきんぎんしゅうらしや】(中国製)です。



金英町曳山(きんえいちょうひきやま)

ほうぎくしゃ
芳菊車

見送り幕は、大和絵から南画【なんが】に進んだ「富岡鉄斎」【とみおかてつさい】の下絵によるもの。外柱【そとばしら】の四神【ししん】の巻金具、下場【したば】の波に龍の彫刻が見事です。

日野祭には現在16基の曳山が現存し、江戸時代中期から末期に製作され約150~200年が経っていますが、現在でも全て現役で日野祭に華を添えています。

年によって本祭に曳き出される数は多少変わりますが、綿向神社への宮入の後、屋上には時代を取り入れた「だし」といわれる人形が飾られます。

曳山では、笛・大太鼓・小太鼓・すり鉦により囃子が奏でられます。また、これらの曳山の「見送り幕」や「彫刻」には重要美術品に匹敵するものもたくさんあります。



仕出町曳山(しでちょうひきやま)

かんぶしゃ
観舞車

創建宝暦年間(1751~1763)以前。嘉永5年(1852)修理。
日野商人の山中家が財力をもって贅【ぜい】を尽くし建造した最も美しい曳山です。銚金具【かざりかなぐ】・彫刻・車輪の仕組みなど造りや細工に特に優れ、幕の織【おり】や刺繍【ししゅう】が見事です。



南大窪町曳山(みなみおおくぼちょうひきやま)

なんそうしゃ
南壮社

天明5年(1785)以前の建造。
曳山下場【したば】組物間、正面階段下の彫刻は仙人や唐獅子牡丹【からじしぼたん】などを主題とした「立川和四郎」【たてかわわしろう】の文政12年(1829)の作品です。



今井町曳山(いまいちょうひきやま)

まいづるしゃ
舞鶴社

文久元年(1861)建造。明治33年(1900)大修理。
階段付重箱型曳山【かいだんつきじゅうばこがたひきやま】の典型で、慶応元年(1865)に今在家村【いまざいけむら】の「忠兵衛」【ちゆうべい】作にて豊富な彫刻が追加されました。龍虎文様横幕【りゅうこもんようよこまく】も特徴的で全体にバランスの良い曳山です。



岡本町曳山(おかもとちょうひきやま)

ほうてんち
法天地

天明年間(1781~1788)頃建造。
日野の曳山の中で唯一、二階屋根があります。文政13年(1830)下場【したば】に諏訪の「立川和四郎」【たてかわわしろう】による十二支を配した木彫などが付けられました。